

平成22年度 第1回 磐田市立学校給食運営委員会 会議録

日 時 平成22年7月12日（月） 午前9時50分から午前11時20分

場 所 磐田市立大原学校給食センター 2階会議室

出席者 委 員：13名

事務局：13名

(教育長、教育委員会事務局長、教育総務課長、学校教育課長、
学校給食管理室5名、学校給食センター4名)

1. 委嘱状及び辞令書交付

今回、新規に選出された8名の委員に教育委員会より交付。任期は平成23年5月31日まで。

2. 教育長あいさつ

今年度9月から、豊田学校給食センターの調理洗浄部門が民間委託になり、稼働を始めます。調理や洗浄を担当する職員は、これまでセンターで働いていた職員が大半残ることとなって、給食が安定して供給されることと思っています。

また、学校給食における保護者負担は食材のみであり、その他につきましては磐田市あるいは国で負担しております。

現在の学校給食の課題としましては、一食の塩分は3g以下ということで、これは非常に味に影響します。また、豆類を一食で6g食べるということもあり、工夫をして対応しています。

それから、給食費未納者への効果的な督促や、地産地消についても努力していきます。

さらに、単独調理場の老朽化が進んでいるため、将来的な事も考えていかなければならないと思っています。

昨年度は、給食の遅延等がありました。単独調理場・センター共に、夏期休業明けには充分注意して、9月からの稼働に遺漏の無いように準備していきたいと考えています。

皆様方からご意見やご質問等あるかと思えます。どうぞ忌憚のないご発言をお願いします。

3. 運営委員会会長選任

市議会選出の委員2名のうち、互選による会長選出を依頼し、鈴木昭二委員を会長として選出した。(平田副会長は留任)

4. 会長あいさつ

給食に関することは、保護者の皆様・PTAの皆様が専門ではないかと思っています。私共市議会の立場としては、どのような運営方法が良いのかということで、常に議会として心掛けていくつもりです。何と申しましても、安全・安心が一番重要なことでもあります。そのほかには保護者の方のご負担であるとか、給食調理業務に関わる皆様の処遇についてもますます厳しくなってくると思います。みなさまには、よりよい委員会にしていきたいと思いますので、

よろしく申し上げます。

5. 磐田市学校給食条例及び学校給食の概要説明

(事務局)

第1条は、学校給食施設の設置を、第2条は、用語の意義を定めています。

第3条は、学校給食施設の名称と位置を定めるもので、3つのセンターと15の単独調理場を定めています。

第4条は、学校給食施設において行う業務を、第5条は、学校給食費の額の決定を市長が教育委員会の意見を聞いて決定すると定めています。

第6条は、学校給食費の納入義務者を、第7条は、学校給食費の納入期日を定めています。

第8条が、学校給食運営委員会に関する規定で、第1項で学校給食の適正かつ円滑な運営を図るため、運営委員会を置くことと定め、第2項で学校給食の運営に関する必要な事項について調査審議するとされており、その内容は「給食の回数」「給食費の額」「納入業者の指定」などとなっています。第3項では委員の定数を15人以内とし、学識経験を有する者、学校医及び学校薬剤師の代表者、PTA代表者、保健所の職員、校長及び園長の代表者、その他教育委員会が必要と認める者となっており、本年度も15名の方々をお願いしています。第4項では、委員の方の任期を2年と定めており、今期の委員の方の任期は、平成23年5月31日までとなっています。

なお、役職の交代や人事異動等があった場合は前任者の残任期間とさせていただきます。

第9条は、規則への委任を定めているものです。

次に、磐田市の学校給食の概要について説明いたします。

はじめに、平成22年5月1日現在の児童、生徒数は、小学校は23校で9,527人、中学校は10校で4,400人、幼稚園は23園で2,466人、全体では16,393人となっています。

学校(園)数及び給食数は、教職員を含めまして、小中学校33校で15,095食、幼稚園23園で2,697食となっています。

調理場別給食数ですが、大原学校給食センターは小学校2校、中学校6校、幼稚園4園分で4,574食、豊田学校給食センターは小学校4校、中学校2校、幼稚園4園分で3,120食、豊岡学校給食センターは小学校3校、中学校1校、幼稚園3園分で1,251食、磐田地区の11の単独調理場は小学校11校、幼稚園11園分で6,959食、竜洋地区の4つの単独調理場は小学校3校、中学校1校、幼稚園1園分で1,888食となっています。また、年間給食実施回数は小中学校で180回となっています。

大原学校給食センターと竜洋東小学校は調理業務を民間に委託しています。なお、9月より豊田学校給食センターも民間に委託してまいります。

給食関係職員数は、3つのセンター、15の単独調理場と学校給食管理室を含めまして全員で119人体制となっています。

給食費の額と給食内容ですが、給食費の月額額は、小学校では豊岡の3,420円から磐田と竜洋の4,360円、中学校では豊岡の4,260円から竜洋の5,110円とまちまちですが、これは主食のうち米飯の実施形態が、豊田と大原の学校給食センターはセンター炊飯、磐田と竜洋地区の単独調理場は委託炊飯、豊岡学校給食センターは米飯持参とそれぞれ異なっているためです。

6. 議事

(1)報告第1号

平成21年度学校給食費決算及び平成22年度学校給食費予算について

(事務局)

歳入合計額につきましては、予算現額は、828,680,000円、調定額は、延べ食数3,038,057食分を保護者から負担していただく額で797,289,690円、収入済額が795,207,620円ですので、収入未済額は2,082,070円となります。これが未納額で、未納率は0.261%となっています。記載はありませんが過年度分の未納額が、1,921,487円ありますので、合計しますと4,003,557円が給食費の未納となっています。内訳は、幼稚園7人64,764円、小学校72人2,004,698円、中学校51人1,934,095円となっています。また理由別では規範意識の欠如21人958,429円、経済的理由が59人1,512,150円、両方の理由が50人1,532,978円となっています。

歳出ですが、これは給食材料費でございます。学校給食法により学校給食に要する経費の内、人件費、施設・設備に要する経費は市が負担し、給食材料費は保護者が負担することになっています。歳出合計の予算現額は828,680,000円で、3,038,057食分の給食材料費として797,295,711円を支出いたしました。

次に、平成22年度学校給食費予算をご覧ください。対象人数を18,325人、延べ食数を3,160,898食と見込んで、歳入、歳出ともに予算額828,359,000円を計上いたしました。

[質疑]

なし

(2)報告第2号

平成22年度学校給食の栄養内容の基準、栄養摂取状況及び献立年間計画について

(事務局)

学校給食の栄養内容の基準は、学校給食法の学校給食実施基準に定められた「児童又は生徒一人一回当たりの学校給食摂取基準」を基本としています。昨年21年度に学校給食法が改正され、基準値も多少、変更されたところです。主に変わった点は、栄養素のたんぱく質とビタミンAです。たんぱく質は小学校24gから20g、中学校は32gから28gと減り、範囲が示されるようになりました。また、ビタミンAについても範囲が示されるようになりました。学校給食は、この基準値を基に献立作成を行っています。

次に、4月から6月までの磐田市の学校給食の栄養摂取状況につきまして、充足率は、ほぼ100%を満たしています。不足しているのは、食物繊維と鉄です。食物繊維は、野菜・海藻・豆類・果物などに多く含まれますが、これらの食品は子供達が苦手とする食品でもあり、量的に多く献立に入れるのが難しいところです。2学期に入ると少しずつ気候も良くなり、給食の食べが良くなってきますので、苦手な食品についても献立に取り入れて、少しずつ量を増やしていきたいと思います。また、給食時間の栄養士訪問やお昼の放送を通じて、好き嫌いをなく食べることの大切さなどを子供達に引き続き指導していきます。

引き続き、献立年間計画につきましてご報告します。献立は、学校栄養職員が作成しています。月ごとの献立作成の目標に基づいて、旬の食材や地場産物を取り入れ、また、行事食を取り入

れて献立を作成しています。献立については、特別なものではなく、そのまま家庭で使えるように、また、食の指導にそのまま活用できるように心がけています。食育月間の6月には、静岡県の事業である「ふるさと給食週間」を6月21日から25日に実施し、県内産物を積極的に献立に取り入れました。

給食の献立につきましては、3つのセンターはそれぞれで作成しています。単独調理場の15校については、1つの基本献立を作成し、それぞれの学校の主食にあわせて、組み替えています。

[質疑]

(委員)

給食を残す率というのは、どのくらいでしょうか。

(事務局)

大原学校給食センターの場合で報告させていただきます。献立によっても違うのですが、豆等については10%以上の残菜があります。子どもたちの好きなカレーや肉では、ほぼ0%です。和え物については献立にもよりますが、5%近くのものがあります。献立によって残菜の率も違いますが、平均すると3%から4%位です。

今の課題としましては、年度の初めということもあり、幼稚園年少組の残菜が見られます。

また、先生方にも一生懸命取り組んでいただいています。

(委員)

残された物は、最終的に焼却しているのですか。

(事務局)

センターによって処分方法は違いますが、大原学校給食センターの場合は、主食のご飯・パンについては業者に回収していただいています。その他の物については、ディスポーザーという機械にかけて、外の排水槽を通して下水に流しています。

豊田学校給食センターの残菜につきましては、生ゴミ処理機により処理します。それによりできた堆肥は、幼稚園・小学校・中学校の希望をとり、学校の菜園等で利用していただいています。

豊岡学校給食センターの残菜につきましては、可燃ゴミとして委託業者が回収しています。

(委員)

処理のためには、費用がかかるのでしょうか。

(事務局)

大原センターの主食分につきましては、委託料を払っています。また、豊岡センターの残菜につきましても払っています。

(委員)

たんぱく質摂取量の充足率について、幼稚園では165%ということで、かなり高いですが、牛乳の摂取はどのようにしていますか。コップでしょうか。

(委員)

幼稚園にもよりますが、4歳児や5歳児については200ccのパック牛乳を飲んでいますが、3歳児は、今は100ccのパック牛乳ですが、徐々に秋頃になって200ccへと移行していきま

(委員)

たんぱく質の基準値が下がったため、充足率が高くなってしまうということで、逆に主菜等に入ってくる分を減らしていかなければならないかもしれません。献立を考えるのは大変ですが、これからの検討課題として欲しいです。

(事務局)

先日幼稚園へ訪問した際に感じたのですが、3歳児も200cc1本、年長さんも同じく1本ということで、どうしてもこの暑い時期には子どもたちは冷たい牛乳を飲みたいという傾向があります。また、幼稚園の先生の方からも話しが出ましたが、磐田市内でも地区によって1ℓのものを出しているところがあるとお聞きました。今の大原センターは、3歳から15歳まで同じ量ですので、センターとしてではなく市全体として考えていかなければならない事であると感じました。これから学校給食管理室と相談していきたいと思っています。

(委員)

牛乳を一度に飲んでしまうと、他の物が食べられず残してしまうという現実もあるかなと思います。効率や手間を考えてしまうと、一人一本の方が分けやすく時間もかからないというのも分かります。

今すぐは無理だと思いますが、将来的に検討していけると良いと思います。幼稚園の先生方のご意見も伺いながら子どものために、よりよい給食の出し方になってくれたらと提案します。

[審議の結果、議案は承認されました。]

以上、議事終了。